川尻うまかもん vol.5

記者 水野 大（9町内）

取材店　和洋酒場 かぶき

あけましておめでとうございます。
今年も川尻うまかもんをどうぞよろしくお願いします。

今年最初のうまかもんは、昨年4月にオープンした『和洋酒場 かぶき』です。お店を営むのは、川尻小・城南中出身という根っからの川尻人、荒木 優さん。ピザやパスタの他にも海鮮系を中心としたイタリアン創作料理が並び、どれから注文しようか迷うほど。たくさんのメニューの中から今回ご紹介したいのが、かぶきイチ押し『男の肉盛り』です。そんなパンチの効いた名前の肉盛り、一度は食べてみたいっ！そうですよね！そんな肉好きのあなたに朗報です。日曜日限定で、通常¥1500がなんと半額の¥750に！（テイクアウトの場合は通常料金となります）ボリューム満点『男の肉盛り』を是非ご賞味あれ！宴会にはかぶきコース¥4000～もありますので、詳しくはお店までお尋ねください。

かぶき名物　男の肉盛り

☎096-206-2559
住所：熊本市南区八幡9-6-36
営業時間：17:00～23:00
(22:30ラストオーダー)
店休日：毎週火曜日

Instagram

元熊本市長三角保之氏ご逝去にあたり、三角恭須子様から香典返しをいただきました。
川尻校区全体の発展の為に使っていただきたいと、過分な香典返しをいただきました。
いただきました浄財は、校区の発展の為、
有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

川尻校区自治協議会会長　米満吉重

編集後記

2021年はコロナ禍一色で、マスクや移動制限またオンライン会議や在宅勤務など生活様式が大きく変わりましたが、コロナに負けず懸命に変化に適応している日本人の対応力にもびっくりしています。その変化の中でネットからの情報収集が当たり前になっていますが、自分は回覧板から届けられる情報や直接話すことによるコミュニケーションもより重要になると思っています。

ところで河陽新聞の発行の目的は３つあり、①自治協議会の広報誌として校区住民や地域へ情報発信する、②川尻校区の歴史、文化、人、情報を伝える、③河陽新聞を通じて「住みやすいまち」「暮らしてみたいまち」「誇れるまち」を目指すことです。なので今回、広報誌としての役割をしっかり果たしていこうと、新年号では川尻校区の情報にプラスして社会・地域へ貢献された方や今後活躍する人たちにスポットライトを当てました。これからも編集部員一同、頑張っていきますので、河陽新聞をよろしくお願いいたします。ちなみに編集メンバーも随時募集していますよ（笑）

発行責任者：川尻校区自治協議会 会長 米満 吉重
編集責任者：川尻校区自治協議会 広報部会 会長 益本 武士

読者プレゼント

『河陽新聞』をお読みいただき、ありがとうございます。応募いただいた方から抽選で『サブリポップコーンの”からし蓮根風味ポップコーン”』を5名様に、『和洋酒場 かぶきの”お食事券 ¥3,000分”』を3名様に、中島瑠菜さんと道脇豊くんのサインをそれぞれ1名様にプレゼントいたします。

①『和洋酒場 かぶき』
お食事券 ¥3,000分 3名様

②『サブリーポップコーン』
プレミアム ポップコーン 5名様

③『中島瑠菜さん』『道脇豊くん』
サイン入り 色紙 各1名様

ご応募は kayou.shinbun@gmail.com に氏名・住所・連絡先・希望プレゼント・今号の感想を記入してメールしてください。当選者の方にはご案内を返信いたします。（商品は手渡しになります。詳細はご当選者様にお送りします）こちらのQRコードから送れます→

平成から令和へ。川尻の“いま”を伝えます

河陽新聞

Vol.33
2022.1.17
KAWASHIRI AREA NEWSPAPER
KAYOU SHINBUN

「河陽」とは緑川の北岸の町という意味で、川尻の古い呼称です。歴史と文化を大事にしてきた川尻にちなんで、「河陽新聞」として川尻校区の情報を発信しています。

祝 第69回川尻校区成人式

記者 森 長浩（11町内）

1月3日川尻公会堂において、第69回川尻校区成人式が開催されました。昨年はコロナ禍で中止となりましたが、今年度は来賓の招待や懇親会を控えるなどコロナ対策を実施した上で、未来を担う新成人の門出を祝う式典となりました。

式には新成人が川尻小に通っていた頃の先生方も参加され、教え子の成長した姿に涙を流される先生もおられました。主催者を代表して米澤紘二川尻公民館館長から「成せばなる」を題材に式辞が述べられ、米満吉重川尻校区自治協議会会長からは「自分の守備範囲の中で目配り気配りのできる人になってほしい」等、祝辞の中で人生の先輩としてアドバイスがありました。また新成人代表からは、夢と現実のギャップを感じながらも自分の目標に向かい努力を続けていることや、仲間への思い、社会の一員として自覚ある決意や謝辞が述べられました。閉式後に行われたインタビューでも、具体的な人生の目標に向かって努力している出席者の近況も伝えられ、それぞれが大人としての階段を少しずつ登っている様子が感じられました。

最後は新成人、主催者、先生方で整列、中川写真館さんによる記念撮影を行いました。写真は後日新成人の元へ送られるとのことです。他に、当日の記念品として瑞鷹の日本酒、川尻六菓匠のお菓子セットが新成人に贈られました。

記者である私も今回運営委員として開催のお手伝いをさせていただきました。この温かい行事が来年以降も長く続くこと、そして残念ながら出席できなかった人も含め、今年の新成人の皆さんの今後の幸せを心から願っています。

6町内の取組

記者 佐分利太介（8町内）

佐分利 防災に関しての取組を教えてください。

西山６町内自治会長 毎年発生している台風に備えて、西蔵（米蔵）のスペース活用法として、高齢者の一時避難所に活用できないかと熊本市に相談している。釘を打ったり造作はできないので、パーテーションなどで区切ってスペースを確保し使用したいです。一人暮らしの高齢者の方などに優先的に避難をしてもらいたいです。

佐分利地域での活動を教えて下さい。

西山会長 日和見山の草取りを以前はボランティアで行っていましたが、現在担い手が不足しており、今年は11月30日に高齢者の方と行いました。是非今後は若い方にも手伝っていただきたいです。

それと12月25日に6町内に花を植える活動を行いました。熊本市から花の苗を提供していただき地域の子供たちと植えました。当日は「かずさ屋」さんの美味しいパンをお土産に準備し子供達の笑顔と花で地区が明るくなりました。まだまだ参加が少ないので是非まずは顔見せにでてきて楽しい笑顔と挨拶に溢れる6町内を目指します。

佐分利 本日はありがとうございました。

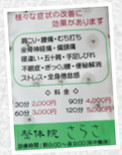
3名の瑞宝章受章

記者
岩清水愛（8町内）

記者
宮田 あき（2町内）

昨年の春の叙勲で37年に渡る消防団の活動を評価され瑞宝単光章を受章された西山春幸6町内自治会長に話を伺いました。

西山さんは32歳で消防団に入団し、最後の8年間は分団長として活躍、69歳で勇退されました。消防士より早く火事場に到着し初期消火を実施したり、徹夜で行方不明者の捜索など、地域の安全安心の為に尽力されました。植村婦人会長と共に十禅寺から川尻まで10分団200名と消防車14台を集めた大規模な消防訓練と防災訓練を実施したことが特に印象に残っていると、懐かしそうに話されているのが印象に残りました。西山さんは現在6町内で“整体院さらさ“を運営していますので、みなさん是非ご利用ください！



おとしの春、瑞宝双光章を受章された元県警部の紫垣憲一さん(12町内)にお話を伺いました。

紫垣さんは昭和41年に警察に入られ、42年もの間警察官として地域に尽力されました。刑事として19年、地域には22年勤務された紫垣さん。警察官になることは自分の運命だった。この受賞は、これまで警察官として一生懸命勤め上げた自分へのご褒美だと優しい表情で話してくださいました。現在は、川尻小学校の子ども達の下校時に、ラックルパト(青パト)に乗って、子ども達の見守りや声かけを行っていらっしゃいます。ラックルパトの音楽が聞こえてくると、あー、子ども達が帰ってくるなーっていういい合図になっていますし、地域の子ども達の安全の為に活動してくださっていることに保護者としても感謝の気持ちでいっぱいです。生まれ育ったこの川尻が大好きだという紫垣さんは、今では好きな川尻の安心安全の為に尽力され続けていらっしゃいます。

おとしの春の叙勲で瑞宝単光章を受章された工納良一さんをご紹介します。

工納さんはなんと、西山さん、紫垣さんとは小中学校の同級生で、紫垣さんとは勤務先も一緒！昭和46年より37年間、熊本県警察に勤務され、時には捜査二課の刑事として、数々の危険な場面を経験しながら熊本県の安全維持に貢献されました。交番勤務時には新任警察官の教育にも力を注がれたそうです。永年著しく危険な業務に精励された功績をたたえられての受章を、最高の栄誉とおっしゃる工納さん、現在は2町内の自治会長でいらっしゃいます。自治会でも同級生と協力されて、住みよい町づくりにご尽力くださっています。工納会長、いつもありがとうございます！

川尻お寺deフェスタ・スピンオフin浄行寺

記者
金井俊行（7町内）

川尻お寺deフェスタ・スピンオフとして「ライトスケープ・キャラバン」が12月4日（土）浄行寺にて開催された。今回は熊本市都市デザイン課×FM791×川尻お寺deフェスタ実行委員会のコラボ企画。同課の夜間景観実証実験「ライトスケープ・キャラバン」の一環で第3弾目。第1弾は11月20日、「寂心さんの樟（くすのき）」（北区）で、第2弾は同26日、水前寺成趣園参道かいわい（中央区）で開催。3週続けての開催であった。公民連携で魅力ある照明演出の実験を行うことで、新たな地域の活動を呼び起こしてもらうのが狙い。実行委員の盛 智照（もりちしょう)さんは「普段は見ることができないきらびやかな夜景を眺めることができる。少し寒いかもしれないが、こだわりのカレーとクラフトビールで楽しんでほしい。川尻に足を運ぶきっかけになれば」と話していた。当日は寺のライトアップに合わせ、カレーとクラフトビールの出店も行った。カレーの出店は、「香辛道カレー」「しゃもじカレー」「マガリカレー」の3店。クラフトビールは「熊本クラフトビール」が出店。多くの方が来場しライトアップされた本堂とスパイスカレーとクラフトビールに酔いしれた。川尻お寺deフェスタ6は『縁〜つなぐ〜』をテーマに令和4年3月13日に開催予定。

「松竹 JAPAN GP GIRLS CONTEST」グランプリ！

記者
益本 武士（7町内）

あの松竹、松竹芸能、松竹エンタテインメントによる大型女性オーディション『松竹 JAPAN GP GIRLS CONTEST』のファイナルイベントが2021年10月31日に都内で開催され、10町内出身の中島瑠菜さん（中学3年生）が、弓道（市内1位、県2位）の腕前や課題審査の演技などを披露し、約9,900名の応募者の中からグランプリに輝きました！

北川景子さんや橋本環奈さんに憧れる瑠菜さんは松竹映画へのメインキャストでの出演と、2023年松竹カレンダーへの出演が決まっていて、今後は川尻を離れ活動の場を東京に移されます。

そんな瑠菜さんの芸能界挑戦のきっかけは川尻小学校時代の音楽部で演劇のひとつであるオペレッタでメイン役を演じ、みんなを楽しませる喜びを感じたからそうです。

「これからは演技を中心に色んなことにチャレンジしたい」と、明るく話してくれた瑠菜さんの目は保育園の頃のキラキラしていた瞳と変わっていませんでした！

川尻校区への多大な貢献

記者
益本 武士（7町内）

2021年8月に地域の文化芸術活動に貢献した人物に贈られる荒木精之記念文化功労者を10町内の一級建築士古川保さんが受賞されました。

古川さんは1992年に川尻で設計事務所を開設して以来、地元の大工・建具・電気などの建築の技術者集団「川尻六工匠」を組織し、川尻の歴史的町並みの保存と町づくりに尽力されています。名店会駐車場の看板や塀、木製のポスト、木製の自動販売機の囲い、川尻月間や酒蔵祭りのかざりつけなど、みなさんよく目にしているものも多いと思います。また熊本地震の際に被災した川尻公会堂を地域の希望に応じて壊すことなく、改修に成功しました。その成果として日本建築防災協会の耐震改修優秀建築賞を受賞されています。これらの活動全体を認められ今回の荒木精之賞の受賞となったそうです。

今ある公会堂は古川さんと住民のみなさんがいなければ取り壊されていたかもしれません。これからも益々みんなで公会堂を大切にしながら活用していきましょう！

頑張る川尻人

河陽新聞は、ガンバル少年少女を全力で応援します！

記者
益本 武士（7町内）

U-15日本代表in川尻城

南中学校の中元大聖君から日本サッカー界のミライモンスターがいるとの情報が河陽新聞に寄せられましたので、さっそく取材に駆け付けました！

彼の名前は「道脇 豊」君、元三町在住で中学3年生の身長186センチ、はっきり言ってイケメンです(笑)豊君は年長の時に太陽スポーツクラブ熊本でサッカーをはじめ、現在はロアッソ熊本のジュニアユース熊本に所属し、週6日間、練習と試合に明け暮れていて、まさにサッカー漬けの毎日です。大迫勇也選手に憧れる豊君は2020年12月にストライカーキャンプに参加して、そこでシュート力や身体能力を評価され2021年4月にU-15日本代表に選ばれて以降4回の合宿に参加しています。2022年2月3月のキャンプで結果を出し、フランスで行われる国際大会とU-17アジア杯予選に出場して活躍しプロになるのが目標だと熱く話してくれました。

「シュート力は誰にも負けない、川尻校区のみなさん！これから有名になるので、応援よろしくお願いします！」とメッセージをくれた豊君、いつの日かサッカーワールドカップで活躍する日を楽しみにみんなで応援していきましょう！

紹介者の
中元大聖君（左）と
道脇豊君（右）